

■目的（事業：2017年度日本サッカー協会公認A・B級コーチ養成講習会 静岡県トライアル）  
静岡県トライアルの振り返りから指導者養成の現状を報告する

■分析対象 A・B級トライアル参加者

■報告対象者

1種から4種指導者（B・C級ライセンス取得者及び上位ライセンス取得希望者）

■流れおよび全体像

B級トライアルに関しては2016年度よりFA主催コースとJFA主催コースの2種類となり、事前に希望をとり、トライアルへの参加となっている。B級の合格ハードルは、C級の合格ハードルである①現象・原因がわかる。②理論に基づいたコーチングができる。具体的にはテーマに合ったメニューを作成し、フリーズやシンクロを活用し、プレーに対するジャッジ、シンプルな問いかけを行う中で選手のパフォーマンスを向上させる。そのためには、観察力が求められ、サッカーの本質とプレーの原理原則に基づいたコーチングが必要となる。

A級トライアルに関しては①チャレンジ&カバー②ポゼッション③自陣からのビルドアップ④攻撃の崩しの4テーマから抽選にて1つのテーマを決め、TR2とGAMEを行った。

■課題の発見と分析

残念ながらC級の合格ハードルとなる「理論に基づいたコーチング」ができていない方は25/37人。多くの方がデモによる基準の提示が出来ていない現状で、説明（ティーチング）が中心になっていました。選手にはプレーさせて指導者はその時間の中で分析し、目の前にいる選手の状況に応じてコーチングできるようにしたいです。指導力としての分析→改善→発展、個別指導・視覚化（デモ）・動機付けが評価のポイントとなっています。基準を示すデモンストレーションやプレーに対するジャッジ、褒める声掛けが必要となります。

■トピックス

A級トライアルに関しては、C級→B級である為、（3人称、攻守、切り替え、テーマ理解）のB級レベルがクリアされているかが評価のポイントとなる。テーマに応じたオーガナイズの作成の部分でトレーニングの積み上げができていないケースがありました。TR2で基準を示しながら選手に落とし込みを行いGAMEへ移りたいところです。そのためには、サッカーの全体像の中からテーマを引き出すオーガナイズやコーチングが必要となります。限られた時間の中でのTR2→GAMEになるので、コーチ自身が何を獲得させたいかの基準を示すことが重要となります。

■提言（東海A級トライアルに向けて）

□テーマの理解とオーガナイズの作成（キーファクターの整理）

□ミスの原因が分かる（観察・分析力）

□改善があること（コーチング力）パフォーマンスの向上へ

□基準を示す→ジャッジする

□質（クオリティー）への追求

※A級、B級静岡県トライアルの前に各地区で、47FAインストラクターや技術委員による事前講習会や指導実践の場を来年度も開催できるようにしたい。